



# 2026年度 グローバルリーダー養成ワークショップ (Zoomオンライン開催)

## ◆2026年日程：

- 9月 8日(火) 9:30~15:30 (途中昼休憩1時間) 【講義】
- 9月 9日(水) 9:30~15:30 (途中昼休憩1時間) 【講義】
- 〔 9月10日(木) グループワーク 【講義はありません】 〕  
(最終日のプレゼンテーションに向けた準備)
- 9月11日(金) 9:30~15:30 (途中昼休憩1時間) 【講義】

## ◆対象：グローバルな環境でビジネスを遂行する立場にあるマネージャー クラスの方、海外に駐在（予定）の方等 (TOEICの目安 650点以上)

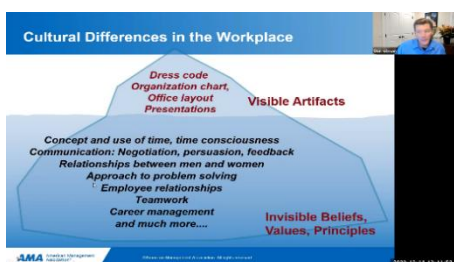
グローバルビジネスを取り巻く環境は、技術革新や価値観の多様化、地政学リスクなどを背景に、絶えず変化しています。

グローバルな環境で業務を遂行するビジネスパーソンには、①未来を戦略的に洞察し現在の行動と未来を結び付ける力、②外部環境の変化に機敏に対応できる柔軟性、③迅速に意思決定し実行する能力、④新しいことを素早く学ぶラーニング・アジリティ、⑤離れた場所で勤務しているチームメンバーとの効果的な協働力、⑥勤務状況／環境が異なる相手に対する共感力、⑦異なる背景や価値観を持つ人材を率いるグローバルリーダーシップなどが求められています。なかでも昨今は、協働力・共感力・グローバルリーダーシップが、グローバル人材に不可欠な基礎力として、ますます重要性を増しています。

本ワークショップでは、英語を用いて上記のビジネス基礎力を学びます。全4日間（各5時間）のオンラインツールを活用したインタラクティブなセッションやグループワークを通じ、様々なアイデアや気づきを得ます。また、セッションに必要な知識や情報をプレワークで学ぶほか、架空の米国企業が日本市場で事業展開するケースを想定し、マーケット戦略の策定や組織・人材マネジメントなどについて、アクションラーニング（※3ページの説明参照）により学習します。

セッション3日目には、最終日のファイナルプレゼンテーションに向けた準備をチームごとに行います。最終日には、米国本社エグゼクティブへのプレゼンテーションを想定したビジネス提案を行います。講座終了後には、各受講者へ講師による個別フィードバックレポートをお送りします。

講師は、米国を中心に多くのグローバル企業においてグローバルリーダー育成に従事している Dr. Donald Gilman が担当します。



## 目的

- 国内や社内だけでなく、国外や社外にも目を向け、視野を広げる。
- 異なる文化を理解し、バーチャルな環境下において相手と信頼関係を築くためのノウハウを学ぶ。
- 変化を避けるのではなく、率先してリードする必要性とその方法を学ぶ。
- 日本と海外におけるマネジメントスタイルの違いを理解し、有効な対処方法を見出す。
- グローバルなビジネス環境において、“発信”することの重要性を認識する。
- アイデアを相手に納得させるためのプレゼン力を向上させる。
- 異業種の参加者と様々な意見を共有し、新たな気づきを見出す。

## アウトライン (予定)

日程	内 容	
事前	プレワーク (事前課題)	本ワークショップの準備として、バーチャルな環境下で必要とされるグローバル・リーダーシップ・スキルに関連するビデオを視聴いただき、また、記事も読んでいただきます。 <その他> 本ワークショップで得たい成果と直属の上司から期待されている成果を提出していただきます。また、自身の行動スタイルに関する事前評価を行います。 ※別途実施要領をお送りします。
第1日	イントロダクション	本ワークショップの目的と構成 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ バーチャル環境におけるグローバルリーダーシップのコアスキル</li> <li>➢ ワークショップの構成とファイナルプレゼンテーションの概要</li> <li>➢ [ディスカッション]急速に変化する環境と、それがグローバルリーダーにとって何を意味するのかについて</li> </ul>
	モジュール1	英語でのバーチャルコミュニケーションスキル <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ バーチャルビジネスカンパシーンの基本(既存の表現、新しい表現)</li> <li>➢ バーチャル環境で誤解されないようにするためにアサーティブな対応をする:バーバルとノンバーバルメッセージ(ボイカル、ビジュアル)</li> <li>➢ オンラインで効果的なブレインストーミングを行う</li> <li>➢ スモールトーク - 受け入れられる話題と受け入れられない話題</li> </ul>
	モジュール2	バーチャル環境における効果的なマネジメント <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ マネジメントスタイルを知る</li> <li>➢ モチベーションと影響力、行動スタイル</li> <li>➢ コンフリクトマネジメント</li> <li>➢ 成長を促す権限委譲</li> </ul>
第2日	モジュール3	バーチャルチームと異文化チームをリードする <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ バーチャルチームをリードする</li> <li>➢ 異文化チームをリードする</li> <li>➢ 異文化体験演習(異文化体験とシミュレーション)</li> </ul>
	モジュール4	変化をリードする <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ チェンジマネジメントとは</li> <li>➢ 変化に対する反発に対応する</li> <li>➢ グローバルに分散したチームで率先して変化をリードする</li> </ul>
	モジュール5	バーチャルおよび対面でのプレゼンテーション <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ バーチャル環境でのビジネスプレゼンテーションスキル</li> </ul>
第3日	グループワーク	最終日のファイナルプレゼンテーションに向けた準備をチームで行う【講義はありません】

第4日	モジュール6	アクションラーニングとファイナルプレゼンテーション <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ アクションラーニングとプレゼンテーションワーク</li> <li>➤ ファイナルプレゼンテーション</li> </ul>
	モジュール7	アクションプランニングとラップアップ <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 継続的な学習と改善のためのアクションプラン作成</li> <li>➤ ラップアップ</li> </ul>
※後日、各受講者へ、ファイナルプレゼンテーションに対する講師によるフィードバックコメントをお送りします		

### WHAT IS ACTION LEARNING?

アクションラーニングとは、実際の問題を取り上げ、その解決策について検討・立案していくビジネスシミュレーション方式の学習法です。アクションラーニングでは、最適な解決策を考えることも重要ですが、むしろ解決策を立案していくまでの過程が重要で、様々な検証や他者との議論を通じて、発想の転換や気づきを生み出します。本プログラムでは、知識の習得を行った後に、架空の会社のケースを用いたアクションラーニングを通して実践力向上を図ります。

■本ワークショップは、アメリカンマネジメントアソシエーション(AMA)のプログラムで構成しています。AMAは、1923年に米国で創設されたマネジメント研修の分野で世界を代表する国際教育研修機関です。現在日本では、クインテグラルの社名にて、AMAのサービスを提供しています。

### 講師

Dr. Donald Gilman (クインテグラル/ AMA 講師)



【略歴】米国カリフォルニア在住。技術経営の理学修士、組織変革で博士号を取得。General Motors や Robert Bosch GmbH において、専門的な技術指導やマネジメント業務に従事。Robert Bosch ではドイツ勤務を経験。現在はグローバル実務経験を活かし、世界各国でグローバルリーダー育成に注力している。

【Donald Gilman 講師 Web サイト】

<http://www.dongilman.com/>

【講師紹介ページ】

<https://www.quintegral.co.jp/training/trainer/don-g/>



### 参加要領

- ◆使用言語： 英語 (TOEIC の目安：650点以上)  
講義およびグループディスカッションは全て英語で実施します。
- ◆参加費： 一人あたり154,000円 (本体140,000円+消費税14,000円)
- ◆定員： 20名 (先着順)

### 申込要領

申込締切日：2026年7月31日(金)

下記申込 URL にアクセスいただき、必要事項をご記入のうえ、お申込みください

URL : <https://e-ve.event-form.jp/event/133723/e0GyLq1Sro>

※キャンセル料 (日数は営業日換算。土日祝日は含みません)

<開催日 10 営業日前~2 営業日前> 30,800 円 (1 名様分・税込、研修資料は送付します)

<開催日前日・当日> 参加費全額 (1 名様分・税込、研修資料は送付します)

※お預かりした個人情報は、経団連事業サービスの個人情報保護規程に基づき、安全かつ適正に管理いたします

## 参加者の声

### ■全体の感想■

- 座学、グループに分かれての討議、プレゼンテーションの時間配分やバランスが良く、あっという間の4日間だった。私自身米国に7年間の駐在経験があるが、納得して再確認ができ、また、他の国の事例や情報を知る事ができて得られるものが多かった。
- テキスト中心ではなく、講師の解説が主体の講義で、より理解しやすい内容だった。また、全4日間と余裕のある日程で、講義後の復習含め理解する時間を十分取ることができた。
- 外国人（米国人）講師による講座で説得力があった。マインドに関する内容からすぐに使えるテクニックまで幅広く取り上げていただき大変有益な内容だった。

### ■内容について■

- バーチャルのみならず、グローバルな環境下でマネジメントを行うためのノウハウを学ぶことができた。
- 文化の違いによる発言の受け止め方、課題に取り組む際の進め方、個人の行動傾向の違いによるモチベーションの与え方などについて学ぶことができた。
- Non Japanese の考え方、Assertiveness の重要性、Conflict への対応などを理解することができた。

### ■講師について■

- 自身のグローバルな体験事例を踏まえた説明も多く、講義内容の理解が深まった。日本にも詳しく、日本とグローバル（日本以外）の違いの説明も説得力があった。
- 経験豊富なキャリアとそのレベルの高さから非常に納得感の高い内容だった。とてもフレンドリーで心理的安全性が確保できており、委縮することなく研修に臨むことができた。
- Non Native の参加者にもわかりやすい英語を意識的に話していただき、内容をきちんと理解できた。参加者のコメントや発表等をポジティブに受け止めてくれたので、恥ずかしがらずに前向きに研修に参加できた。

## 主な参加企業（2011年度～2025年度）（五十音順：会社名は当時のもの）

IHI/曙ブレーキ工業/旭化成/旭硝子(AGC)/朝日航洋/アジレント・テクノロジー/あすか製薬/梓設計/アズビル/アドバンテスト/アフラック生命保険/アルプスアルパイン/イオン/伊勢化学工業/伊藤忠商事/インサイト・バイオサイエンス・ジャパン/インターネットイニシアティブ/ヴィエムウェア/AGC/エクイニクス・テクノロジー・サービス/江口巖商店/SCSK/エスビー食品/NTT 国際通信/NTTコミュニケーションズ/NTTデータ/NTT リミテッド・ジャパン/ENEOS/大塚製薬/大林組/オクサリスケミカルズ/オリエンタル酵母工業/オリンパス/カシオ計算機/鹿島建設/キオクシア/キヤノン/キヤノン電子/キリンホールディングス/クインテラル/グローバルプロデュース/KDDI/建設技術研究所/鴻池運輸/神戸製鋼所/小松製作所/酒井重工業/サッポロビール/山九/シークス/JSR/JFE エンジニアリング/静岡ガス/資生堂/昭和電工/昭和電線ケーブルシステム/シンジェンタジャパン/新生銀行/新東工業/新菱冷熱工業/スズクホールディングス/住友ゴム工業/住友商事/住友ベークライト/住友林業/セガ/セガサミーホールディングス/セブン-イレブン・ジャパン/大成建設/大日本住友製薬/太平洋セメント/大鵬薬品工業/タス/中外製薬/千代田化工建設/TSUCHIYA/TIS/DM三井製糖/TDK/帝国ホテル/帝人/デロイトトーマツ税理士法人/電源開発/東京電力ホールディングス/東燃ゼネラル石油/東陽/東レ/凸版印刷/トピー工業/中日本高速道路/西松建設/ニチレイフーズ/日揮/日揮グローバル/日建設計/日新/日清製粉ウェルナ/日清製粉グループ本社/日鉄興和不動産/日鉄ソリューションズ/日本経済団体連合会/日本航空/日本航空電子工業/日本工営/日本触媒/日本製鉄/日本通運(NIPPON EXPRESS ホールディングス)/日本電信電話/日本能率協会/日本バイリーン/日本フェルト/日本メドトロニック/日本ユニシス/ニュー・オータニ/野村総合研究所/パナソニック/バンドー化学/びあ/久光製薬/日立コンサルティング/日立ビルシステム/ファイザー/フコク/フジタ/富士電機/HOYA/前田建設工業/丸紅/三井金属鉱業/三井住友海上火災保険/三井造船/ミツウロコグループホールディングス/三菱ケミカル/三菱ケミカルメタクリレート/三菱重工業/三菱商事/三菱製鋼/三菱電機/ミライト/山田コンサルティンググループ/安井建築設計事務所/ユアサ商事/郵船ロジスティクス/横河電機/ライオン/ライオン・スペシャリティ・ケミカルズ/リコー/リフィニティブ・ジャパン

【お申込み・お問合せ先】

経団連事業サービス 講座事業部門

E-mail: [global@keidanren-jigyoservice.or.jp](mailto:global@keidanren-jigyoservice.or.jp)

TEL: 03-6741-0042

